発達障害当事者力　発見・創造・発信

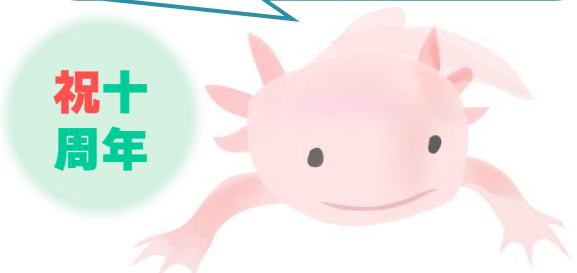
凸凹ライフレター

Vol.27　2025年6月発行（偶数月発行）

凸凹なライフをおくる
私たちのニュースレター

今号のトピックス

・【報告】『障害をオープンにすること』出版記念イベントを行いました
・【報告】熊本市障がい者自立支援協議会就労部会（熊本市障がい福祉課）第8回就労フェアにて挨拶等を行いました
・一般財団法人精神障害当事者会ポルケによるプロジェクトのガイダンス・報告書等の発行に協力しました



特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

HP：https://unevennpo.wixsite.com/decoboco
FB：https://www.facebook.com/uneven.npo
Twitter：https://twitter.com/uneven_npo
Mail：uneven.npo@gmail.com

報告

2025年5月11日(日)13:30-15:00　福岡市市民福祉プラザ
一般財団法人あすたむ舎助成事業

『障害をオープンにすること』出版記念イベントを行いました

凸凹ライフデザインでは2024年度より継続して、障害理解啓発冊子の制作に一般財団法人あすたむ舎様助成事業として取り組み、2025年4月30日に『障害をオープンにすること』を発行しました。自分の障害のことを、ふだん生活している場で誰にどのように伝えるか、私たち当事者にはしばしば困難を伴って考える機会がたくさんあります。冊子には当事者の方々からのご寄稿の他、当事者会において参加者の皆さんに障害をオープンにすることをテーマにお話いただいた記録、またインタビューを掲載しています。

発行を記念したイベントを、福岡市の発達障害当事者会「発達障害当事者グループきなっせ！九州」の協力を得て開催しました。相良から冊子作成の背景などについて話題提供を行った後、会場にお越しいただいたさまざまな立場の21名で、障害開示についての課題感や具体的な悩み、それらについて考えていることなど意見交換を行い、盛会となり予定時間をやや超過してそれぞれのことばを場で共有しました。多くの方が、障害を開示したい「けれど」の部分に現在存在するさまざまな難しさの経験をお話しくださいました。

会場ではこれまでに発行した冊子のご紹介も行い、みなさまご関心をお持ちくださいました。参加者のみなさまと共に良い場をつくることができました。本当にありがとうございました。

▲冊子のお申し込みはこちらから・これまでに発行された冊子も同時にお申し込みいただけます

発達障害当事者グループきなっせ！九州

福岡市で2004年より活動している発達障害当事者団体です。現在は凸凹ライフデザインの障害当事者会センターでサポートしており、九州で一緒に活動する連携団体でもあります。月1回程度、福岡市市民福祉プラザ（ふくふくプラザ）で定例ミーティングを行っています。オンラインで行う場合もあります。

▲ホームページ

ご案内

信州大学医学部看護学科の授業に参画しています

連携団体の精神障害当事者会ポルケの理事を当団体の相良が務めています。精神科看護の授業を、信州大学の下里先生、木下先生とともにつくるプロジェクトが進んでいます。学生・教員・当事者の三者でつくる授業、学びのあり方が年を追うごとに深化を見せています。木下さんが作成している授業テキストは、常に当事者視点に立ち、当事者本人の者としてのリカバリーを支える看護師となるための大切なエッセンスが詰まっています。

私たちの生活を支える支援職を育成する教育における当事者参画の一つのモデルを示すことも目標に、今年度も取り組みを進めます。

障害当事者会センターを設置しています

発達障害当事者団体などのネットワーキングを推進・サポートしています。ご関心のある団体の方はぜひお問合せください。同じように他地域でも活動している仲間の存在を感じながら共に歩みましょう。

わたしたちの活動はみなさまのご寄付に支えられています

【お振込先】
ゆうちょ銀行
口座名義：特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

＊ゆうちょ銀行からのお振替の場合
記号番号：（記号）１７１２０　（番号）３２０２２８９１
＊他金融機関からのお振り込みの場合
店番：７１８　普通預金　口座番号：３２０２２８９

☆賛助会員も募集しています！詳しくはHPをご覧ください。

報告

2025年6月13日(金)

宮崎市自立支援協議会障がい理解啓発部会で話題提供を行いました

当団体の相良が宮崎市自立支援協議会障がい理解啓発部会に参画しています。部会では今年度、さまざまな障害のある人から、日ごろの困りごとなどについて話を聞き、その動画を研修資料として生かすプロジェクトが始まりました。第1回目の6月13日に、オンラインにて相良より「生活の中の困りごと－発達障害－」の題で話題提供を行いました。当事者会ミーティングの中でよく話題にあがるテーマにも触れながら、生活の中で私たちがしばしばハードル、壁を感じる場面を伝え、なぜそのような壁が生じるのか考えを述べました。

特に職場と福祉サービス利用の場面について取り上げ、感覚過敏やコミュニケーションに現れる違いから生じてしまう人間関係の困難さなど、仲間の経験から学んでいることも合わせてお話しました。

この企画は、障がい理解啓発部会のメンバーの他、他の部会に参画されている方にも開かれて行われ、関心を持って話を聞いてくださいました。質問のコーナーも設けられ、支援者、行政、家族などさまざまなお立場からご質問をいただき、ディスカッションができとても良い機会になりました。

特に、子どもについてのご質問が多く上がりました。教育の場などで、保護者が子どもの発達障害の可能性を伝えられるケースが増えていると感じます。早期発見と言われますが、どこかインクルーシブなあり方と逆行する流れとなりかねない話も漏れ聞きます。私たちは成人した当事者による団体の視点から動きを注視し、発信を続けていきたいと思います。

日本精神神経学会学術総会に参加しました

6月19日-21日に神戸国際会議場等で開かれた日本精神神経学会に参加しました。

発達障害を主のテーマとしていない報告においても、しばしば発達障害の話題があがっており、当事者が参加することの意味を再確認しました。

九州大学の田中真理先生より情報提供をいただきました

5月12日に九州大学伊都キャンパス内のインクルージョン支援推進室を訪問し、田中真理先生とお話の機会をいただきました。田中先生とはNHK「明日をまもるナビ」の「みんあで助かるために 発達障害がある人と災害」(2023年11月)でご一緒しました。その後のインクルーシブ防災の取り組みについてもお伝えし、田中先生からはインクルージョン支援推進室の「合理的配慮ガイドブック」のご説明をいただきました。大学ホームページよりダウンロード可能ですので、ぜひご覧ください。

インクルージョン支援推進室▶